

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAa001		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理学の入門講座 ( 心理専門科目の基礎 ) として、人間の行動と心を科学的に理解する態度と視座を身につける。

#### 科目の概要

物理学が「物」の理を探究するのに対して、心理学は「心」の理を探究する学問です。では、その「心」とは何を指し、どのようにして理を探究するのでしょうか？

前半は「脳と心」をテーマに、簡単な心理学実験などに参加してもらい、自らの体験を通して人間の反応や行動の特徴を学ぶと同時に、そのメカニズムについて考えます。

後半は「心と適応」をテーマに、実際に心理テストや思考課題を行い、人間の社会的適応・不適応のメカニズムやコミュニケーションのあり方などを実践的に学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

#### 内容

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

- 1 心理学とは
- 2 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 3 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 4 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 5 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 6 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 7 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 8 発達と認知 - 発達とは
- 9 発達と認知 - 育み合う心
- 10 情報と思考 - 推論とは
- 11 情報と思考 - 原因を考える
- 12 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 13 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 14 社会的行動 - 適応と不適応
- 15 まとめ

## 評価

中間テスト（2回、計60点）、期末試験（1回、計40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 参考図書・推薦図書と併せて、授業のなかで適宜図書を紹介する。

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAa001		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理学の入門講座 ( 心理専門科目の基礎 ) として、人間の行動と心を科学的に理解する態度と視座を身につける。

#### 科目の概要

物理学が「物」の理を探究するのに対して、心理学は「心」の理を探究する学問です。では、その「心」とは何を指し、どのようにして理を探究するのでしょうか？

前半は「脳と心」をテーマに、簡単な心理学実験などに参加してもらい、自らの体験を通して人間の反応や行動の特徴を学ぶと同時に、そのメカニズムについて考えます。

後半は「心と適応」をテーマに、実際に心理テストや思考課題を行い、人間の社会的適応・不適応のメカニズムやコミュニケーションのあり方などを実践的に学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

#### 内容

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

- 1 心理学とは
- 2 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 3 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 4 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 5 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 6 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 7 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 8 発達と認知 - 発達とは
- 9 発達と認知 - 育み合う心
- 10 情報と思考 - 推論とは
- 11 情報と思考 - 原因を考える
- 12 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 13 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 14 社会的行動 - 適応と不適応
- 15 まとめ

## 評価

中間テスト（2回、計60点）、期末試験（1回、計40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 参考図書・推薦図書と併せて、授業のなかで適宜図書を紹介する。

科目名	発達心理学概論		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング	KAa002		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

- 1.科目の性格：発達心理学的研究方法論の基礎を理解する。
- 2.科目の概要：言語と認識の関わりからの視点から、5つのトピックをとりあげ、人間発達過程について理解する。  
人間発達の可塑性、言語・認知の発達、想像力の発達、読み書き能力の発達、子ども理解
- 3.学修目標：子どもの発達、言語と認識の関係について、自分なりのイメージを描けるようになること。発達心理学の方法論について理解すること。

## 内容

1	ことばと人間 人間になること：ヒト～人への進化史をたどり、言語と意識の起源を探る
2	世界認識の開始：世界認識の成立過程
3	象徴機能の発生過程：象徴機能の発生とことばの獲得
4	ことばの意味の広がり：身振り・発生の統合から意味あることばの獲得の過程
5	言語発達：何がことばの学習に制約を与えるか
6	助数詞の獲得：助数詞の獲得過程の文化差
7	会話行動の発達：会話構造のスタイルの成立過程
8	第二言語の学習：言語発達の生物学的基盤
9	小学校英語の教科化：早期英語活動（学習）の導入の意味と意義
10	ことばが遅滞するとき：児童虐待の社会的背景
11	ことばが遅滞するとき：児童虐待からの再生・支援の原則
12	想像力の発達：子どものウソは『嘘』か？ 語り・想起・共同構成のメカニズムから
13	読み書き能力の獲得：学力格差は幼児期から始まるか
14	読み書き能力の獲得：学校経験の意味と意義
15	書くことによる認識の発達：書くこと・考えること・生きること

## 評価

毎回の3分間振り返り作文（30%）と テストレポート課題（70%）とし、総合評価点60点以上を合格とする。

## 授業外学習

- 【事前予習】受講者はテキストの授業でとりあげる章を読み、問題点や疑問をノートに書き出しておく。
- 【事後学修】その日とりあげたテキストの該当章を読み返し、授業で配布した講義レジュメを参照しながら学びの振り返りをする。事前予習時に記した問題点や疑問に回答しておく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：内田伸子著 発達心理学—ことばの獲得と教育— 岩波書店 2002

推薦書：藤永 保・斎賀久敬・春日 喬・内田伸子 人間発達と初期環境 有斐閣 1987

- 内田伸子 子どもの文章－書くこと・考えること 東京大学出版会 1990
- 内田伸子 言語発達心理学 放送大学教育振興会 1998
- 内田伸子 想像力－創造の泉をさぐる－ 講談社 1994

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb109		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

#### 科目の概要

臨床心理学とは一体何か。それはこころの問題に対して、心理学的な援助を行うための学問である。しかし、こころとは一体何で、そして心理学的な援助とは一体何だろうか。本授業では臨床心理学の全般的な知識を学ぶと同時に、それが時代の変化と深く関わってきたことを取り上げる。最終的には、現代にあって臨床心理学とは一体何かを理解することが目指される。

#### 学修目標 (= 到達目標)

臨床心理学が時代の中でどのように発展してきたのかを理解することで、この学問がどのような性質の学問であり、この学問を学ぶことにはいかなる意義があるのかを理解する。

内容	
1	イントロダクション 現代の臨床心理学
2	夜明け前の臨床心理学 シャーマン・狐憑き・精神医学
3	フロイトの精神分析 無意識の発見
4	フロイトの精神分析 転移の発見
5	「理想の時代」のロジャース 高度成長期の臨床心理学
6	関係すること カウンセリング・マインドの展開
7	ロジャースを知る
8	「虚構の時代」の河合隼雄
9	箱庭療法と心理学すること
10	ユング心理学入門
11	「動物の時代」の臨床心理学 文化の問題
12	認知行動療法入門 動物とコンピューターの心理学
13	対象関係論 赤ん坊の心理学
14	臨床心理学と非臨床心理学
15	まとめ

#### 評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし

【推薦書】 適宜指示する

【参考図書】 適宜指示する



科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb109		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

#### 科目の概要

臨床心理学とは一体何か。それはこころの問題に対して、心理学的な援助を行うための学問である。しかし、こころとは一体何で、そして心理学的な援助とは一体何だろうか。本授業では臨床心理学の全般的な知識を学ぶと同時に、それが時代の変化と深く関わってきたことを取り上げる。最終的には、現代にあって臨床心理学とは一体何かを理解することが目指される。

#### 学修目標 (= 到達目標)

臨床心理学が時代の中でどのように発展してきたのかを理解することで、この学問がどのような性質の学問であり、この学問を学ぶことにはいかなる意義があるのかを理解する。

#### 内容

1	イントロダクション 現代の臨床心理学
2	夜明け前の臨床心理学 シャーマン・狐憑き・精神医学
3	フロイトの精神分析 無意識の発見
4	フロイトの精神分析 転移の発見
5	「理想の時代」のロジャース 高度成長期の臨床心理学
6	関係すること カウンセリング・マインドの展開
7	ロジャースを知る
8	「虚構の時代」の河合隼雄
9	箱庭療法と心理学すること
10	ユング心理学入門
11	「動物の時代」の臨床心理学 文化の問題
12	認知行動療法入門 動物とコンピューターの心理学
13	対象関係論 赤ん坊の心理学
14	臨床心理学と非臨床心理学
15	まとめ

#### 評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする

## 授業外学習

- 【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること
- 【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 特になし
- 【推薦書】 適宜指示する
- 【参考図書】 適宜指示する

科目名	カウニング理論		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAb111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は必修科目である。カウニングとはある人が抱える問題や悩みに対して、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助のことである。したがって、この科目を学ぶことは、自他問わずメンタルヘルス対策につながる可能性がある。また、2年次に学ぶカウニングの基礎 ( 技法 ) の礎となる重要な科目でもある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な解決方法のひとつにカウニングがある。その基礎基本となり、支える諸理論 ( 精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等 ) を専門的に学ぶ。

学修目標

カウニングとはいかなるものかを事例やロールプレイなどの体験を通して、その知識や理解を深める。とくに、ロールプレイは実践的に学ぶうえで欠かせなく、体験的に授業を進めるために、積極性や協調性などが身につく。また、心理的問題や悩みなどの解決方法も身につくので、日常生活などでの活用が深まる。したがって、授業では他者への積極的関与を意識し学修することが求められる。

内容	
1	はじめに
2	カウニングとは ( 歴史、語源、定義等 )
3	カウニングと心理療法の異同
4	カウニングを支える代表的な理論 ( 精神分析的カウニング ) ( 1 )
5	カウニングを支える代表的な理論 ( 精神分析的カウニング ) ( 2 )
6	カウニングを支える代表的な理論 ( 認知行動カウニング ) ( 1 )
7	カウニングを支える代表的な理論 ( 認知行動カウニング ) ( 2 )
8	カウニングを支える代表的な理論 ( 来談者中心カウニング ) ( 1 )
9	カウニングを支える代表的な理論 ( 来談者中心カウニング ) ( 2 )
10	プロセスとしてのカウニング ( カウニングマインド、信頼関係の構築 )
11	心理アセスメントの方法
12	カウンセラーに必要な知識と技術 ( 傾聴、受容、共感 )
13	その他のカウニングの諸理論及び展開例
14	カウニングの事例から学ぶ
15	まとめ

授業中に課す課題への解答や授業中の態度や姿勢（30%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上の出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】次回行う授業場面を想定し、1時間程度は使用するテキストをしっかりと読み込むこと。

【事後学修】ノートなど活用し、毎時間に学習したことを1時間程度は各自で整理しておくことが望ましい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）「物語から考えるカウンセリングの基礎 その理論と技法」

エース出版、著者（柏葉修治）

（推薦書）「よくわかる 心理学（心の謎にせまる）」 池田書店（著者）尾形佳晃

（参考図書） 教室で紹介する

科目名	カウンセリング理論		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAb111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は必修科目である。カウンセリングとはある人が抱える問題や悩みに対して、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助のことである。したがって、この科目を学ぶことは、自他問わずメンタルヘルス対策につながる可能性がある。また、2年次に学ぶカウンセリングの基礎（技法）の礎となる重要な科目でもある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な解決方法のひとつにカウンセリングがある。その基礎基本となり、支える諸理論（精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等）を専門的に学ぶ。

学修目標

カウンセリングとはいかなるものかを事例やロールプレイなどの体験を通して、その知識や理解を深める。とくに、ロールプレイは実践的に学ぶうえで欠かせなく、体験的に授業を進めるために、積極性や協調性などが身につく。また、心理的問題や悩みなどの解決方法も身につくので、日常生活などでの活用が深まる。したがって、授業では他者への積極的関与を意識し学修することが求められる。

内容	
1	はじめに
2	カウンセリングとは(歴史、語源、定義等)
3	カウンセリングと心理療法の異同
4	カウンセリングを支える代表的な理論(精神分析的カウンセリング)(1)
5	カウンセリングを支える代表的な理論(精神分析的カウンセリング)(2)
6	カウンセリングを支える代表的な理論(認知行動カウンセリング)(1)
7	カウンセリングを支える代表的な理論(認知行動カウンセリング)(2)
8	カウンセリングを支える代表的な理論(来談者中心カウンセリング)(1)
9	カウンセリングを支える代表的な理論(来談者中心カウンセリング)(2)
10	プロセスとしてのカウンセリング(カウンセリングマインド、信頼関係の構築)
11	心理アセスメントの方法
12	カウンセラーに必要な知識と技術(傾聴、受容、共感)
13	その他のカウンセリングの諸理論及び展開例
14	カウンセリングの事例から学ぶ
15	まとめ

授業中に課す課題への解答や授業中の態度や姿勢（30%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上の出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】次回行う授業場面を想定し、1時間程度は使用するテキストをしっかりと読み込むこと。

【事後学修】ノートなど活用し、毎時間に学習したことを1時間程度は各自で整理しておくことが望ましい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）「物語から考えるカウンセリングの基礎 その理論と技法」

エース出版、著者（柏葉修治）

（推薦書）「よくわかる 心理学（心の謎にせまる）」 池田書店（著者）尾形佳晃

（参考図書） 教室で紹介する

科目名	心理統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc024		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎を身につける。卒業研究までの多くの専門科目において基礎となる事項を学ぶ。

### 科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

### 学修目標

統計手法の実践力を身につけること、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力を学ぶことが目標である。ほぼ毎回宿題を課すので確実に解答すること。

## 内容

- 1 . ガイダンス、心理統計法の意義
- 2 . 心理データの測定と尺度
- 3 . 度数分布
- 4 . 統計図表 ( 質的変数の図示法、量的変数の図示法 )
- 5 . 代表値 ( 平均値、中央値、最頻値 )
- 6 . 散布度 ( 分散と標準偏差、範囲、四分領域 )
- 7 . 正規分布と相対的位置
- 8 . 2 変数間の相関、線形回帰
- 9 . 2 つの平均の比較 ( t 検定 )
- 10 . クロス集計
- 11 . 2 乗検定と連関係数
- 12 . 3 つ以上の平均の比較 ( 分散分析 )
- 13 . 記述統計の確認
- 14 . 統計的検定の応用
- 15 . まとめ

## 評価

授業内課題の提出と出席は評価の前提条件である。

筆記試験（統計計算と検定が中心）を100点満点により評価を行う。  
所定の試験で合格に達しない場合は、夏期休業期間に再試験を行う。

#### 授業外学習

- 【事前準備】シラバスに基づいて、該当する教科書に目を通すこと
- 【事後学修】出題された課題（宿題）について、受講内容を確認しながら解答する

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房
- 【電卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること（毎時使用します）



科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう ( 相関係数 )
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 ( 1 )：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	奥村 基生		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう ( 相関係数 )
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 ( 1 )：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう ( 相関係数 )
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 ( 1 )：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	奥村 基生		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

#### 内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 ( 質的データと量的データ )
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう ( 表とグラフの作成 )
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう ( 相関係数 )
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 ( 1 )：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう ( クロス集計表と 2検定 )
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

#### 評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。



科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5=100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。  
総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。



科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート ( 各20点×5 = 100点 ) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

### 科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

### 学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

## 内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
  - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
  - (2) 囚人のジレンマ
  - (3) 二点弁別闘
  - (4) 心的回転
  - (5) 調査法1：尺度作成
  - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

\* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

\* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

## 評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5=100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd138		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容	
1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60点 + 中間テスト30点 + 授業内の課題10点により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげる用語について、資料、テキスト等で調べ予習をしてくる。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd138		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容	
1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60点 + 中間テスト30点 + 授業内の課題10点により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげる用語について、資料、テキスト等で調べ予習をしてくる。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。



科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAd239		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 人間発達心理学科 ( KC )		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

#### 科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

#### 学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

## 内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション ( 要請承諾・説得 )
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

## 評価

授業内の小課題10点、期末テスト90点、の計100点満点により評価を行う。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	性格心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe246		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科における生活科目領域の科目です (他学科開放あり)。心理学を初めて学ぶ人を対象として、人を理解する方法として「性格」を学びます。

#### 科目の概要

一般社会の中で広く使われる日常語としての「性格」は、各種メディアが日々提供する「血液型性格診断」や「各種チャート式性格診断」を通じて多くの人々に慣れ親しんでいます。しかし、正式な学問としての「性格心理学」からは遠くかけ離れた存在です。そこで、「性格とはなにか?」からスタートし、「作られ方」「影響」「病との関係」「問題行動との関係」など、「性格」を学術的に学びます。

#### 学修目標 (= 到達目標)

本講義では、一般で得られる「性格」と、学問である「性格心理学」との差異を理解し、最終的には日常の言動を性格心理学の観点から説明できるようになることを目指します。

内容	
1	イントロダクション ( 講義内容の説明 )
2	性格とは何か ( いわゆる “ 性格 ” というものを考える )
3	性格と人格-1- ( 科学的な考え方を学ぶ )
4	性格と人格-2- ( 古代から現代までの理論から考える )
5	性格と人格-3- ( 代表的な性格理論を学ぶ )
6	性格の作られ方-1- ( 性格形成論を学ぶ・前編 )
7	性格の作られ方-2- ( 性格形成論を学ぶ・中編 )
8	性格の作られ方-3- ( 性格形成論を学ぶ・後編 )
9	性格の影響-1- ( 自分と周囲の人たちとの関係を考える : 対人コミュニケーション方法 )
10	性格の影響-2- ( 自分と周囲の人たちとの関係を考える : 適応と不適応 )
11	性格と適正 ( 趣味・仕事と性格の関係を学ぶ )
12	性格と健康 ( 病気と性格の関係を学ぶ )
13	性格の異常 ( 問題行動と性格の関係を学ぶ )
14	性格の理解と修正 ( みる・きく・はかる、心理検査法と心理療法のはなし )
15	総合まとめ

#### 評価

平常点 ( 通常講義内に課されるレポート他 ) を30点、筆記試験を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、再試験をおこなう。

## 授業外学習

【事前準備】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認する。

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井 豊 共著『性格心理学への招待[改訂版]』2003 サイエンス社

【推薦書】清水弘司 著『はじめてふれる性格心理学』1998 サイエンス社

【参考図書】講義中に適宜紹介します

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度の合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度にしっかりと身につけておくことは、4年間の学修の基盤を形成することである。授業は習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で対応していく。前半と後半に分け、確認テストを行い、テストの結果を踏まえ、コース選択を調整できるようにし、それぞれの心理学リテラシーを確実に向上させていく。

学修目標 (= 到達目標)

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

内容

1	授業の概要を説明する。学力テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、コース調整を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	<数学・補充> 数学の基礎的な内容を復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
14	
15	確認テストを実施する。テストの結果を踏まえ、今後の学修の進め方を検討する。

評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。 合格点に満たなか

った場合は、再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前準備】テキストの確認し、次時の内容について、あらかじめ確認しておく。

【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】随時授業中に紹介する

【参考図書】随時授業中に紹介する

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度の合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

#### 科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度にしっかりと身につけておくことは、4年間の学修の基盤を形成することである。授業は習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で対応していく。前半と後半に分け、確認テストを行い、テストの結果を踏まえ、コース選択を調整できるようにし、それぞれの心理学リテラシーを確実に向上させていく。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

内容	
1	授業の概要を説明する。学力テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、コース調整を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	<数学・補充> 数学の基礎的な内容をもう一度復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
14	
15	確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、今後の学修の進め方を検討する。

#### 評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。 合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

## 授業外学習

【事前準備】テキストの確認し、次時の内容について、あらかじめ確認しておく。

【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】随時授業中に紹介する

【参考図書】随時授業中に紹介する



科目名	子どもの発達と環境		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAe248		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生涯発達領域 専門科目

科目の概要

子どもは産まれた瞬間から、子どもを取り巻く環境と相互作用しながら発達していく。子どもの発達に重要な環境は、物理的な環境だけでなく、養育者をはじめとする身近な大人や仲間などの人的な環境、また、より包括的な社会環境や文化的背景など、幅広い。また、現代では子どもを取り巻く環境はめまぐるしく変化していつている。発達の過程と要因についての基礎的な理論を理解すると同時に、今日的な問題や最新の研究を取り上げながら、子どもの発達と環境との相互作用について考察することを目標とする。講義形式の授業を基本に、グループでの討論や発表を適宜取り入れる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 発達の過程と要因についての基礎的な知識や理論を学ぶ。
- ・ 子どもの発達と環境の相互作用に関する知見や考え方を知り、考察する
- ・ 現代における子どもの発達に対して問題意識を持って、発達に必要な環境について考える。

内容

1	人間の発達の特異性：子どもの発達をとらえる
2	子どもの発達における環境との相互作用
3	親子関係の発達：愛着とは
4	親子関係の発達：家族というシステム
5	現在の子育て事情：拡がる子育ての場
6	少子化社会の家族・地域
7	文化的背景と子育て
8	言語の発達と環境：前言語期
9	言語の発達と環境：言語の発生
10	言語の発達と環境：学校の中での言語
11	子どもの文化：遊びの中にある学び
12	メディアの影響と子ども
13	集団と遊び体験
14	子どもの発達における望ましい環境とは
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、小レポート・グループワーク40%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】自分なりに各回のテーマに関しての思いや経験について考えておくこと

【事後学修】授業で紹介した知見や考え方をふまえて、疑問点を調べたり、考察を深めたりすること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAf157		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

### 科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

## 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読んでおくこと

【事後学修】授業で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直す

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	学校保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf161		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

学修目標として、

学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。

学校保健における基礎的事項について理解する。

学校保健における養護教諭の役割を理解する。

以上3点をあげる。

#### 内容

1	学校教育と学校保健について
2	学校保健の意義と関連法規について
3	学校保健の領域構造と学校保健関係者について
4	学校保健計画の法的根拠と意義、内容について
5	学校における保健教育について
6	保健指導の進め方について
7	健康相談の意義と進め方について
8	養護教諭が行う健康相談について
9	健康観察の意義と法的根拠について
10	健康観察の機会と方法について
11	健康診断の意義と法的根拠について
12	健康診断の種類と項目について
13	健康診断の計画と実施について
14	健康診断の事後措置について
15	まとめ

#### 評価

筆記試験 (小テストを含む) 9割、通常の授業への参加度 1割により評価とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前準備】 次回の内容について課題を出す。1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】 学修内容について1時間程度の復習 (まとめ) が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】養護教諭のための学校保健＜第13版＞ 出井美智子他 少年写真新聞社

【推薦書】授業中に適宜示す

科目名	免疫学		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング	KAf163		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理に関する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー・免疫学講義 (日本図書館協会推薦図書)」によって学ぶ。

#### 科目の概要

免疫とアレルギーについて教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド (PowerPoint) で説明する。尚使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク【フォルダUドライブ】に開示して学習の参考に供する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

免疫とアレルギーの基礎を理解することを学修目標とする。

1. 高校で学んだ免疫とアレルギーの知識を整理する。
2. 免疫とアレルギーの歴史について理解する。
3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶ。
4. 感染症とワクチンについて理解する。
5. 免疫異常とアレルギー型別について学ぶ。

#### 内容

1	I部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2	自然免疫システム
3	免疫を担当する器官と細胞
4	獲得免疫システム
5	サイトカイン・エフェクター細胞
6	感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7	II部：免疫異常・アレルギー。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患
8	アレルギー・アナフラキシー
9	アレルギー対策・予防・検査法
10	アレルゲン
11	花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー
12	アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
13	小児アレルギー・気管支喘息
14	食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス
15	職業アレルギー・心理免疫アレルギー。まとめ。

#### 評価

中間筆記テスト ( 40点 )、期末筆記テスト ( 40点 )、授業態度 ( 20点 ) によって評価を行い、総合評価60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う

#### 授業外学習

【事前準備】「チェックポイント」の全体把握。セルフチェック問題集A選択問題予習。学内LANパワーポイント予習。  
【事後学修】「復習」の内容把握。「研究課題」解答。セルフチェック問題集B記述問題解答。学内LANパワーポイント  
解読。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（2007）  
【推薦書】扇元敬司 訳、K.Vedhara, M. Irwin著「心理免疫学概論」川島書店（2008）  
扇元敬司 著「やさしいバイオのための微生物学」講談社（2012）  
扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）



科目名	栄養学		
担当教員名	佐々木 菜穂		
ナンバリング	KAf064		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

本科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修科目です。養護教諭が生徒の健康管理を行う上で必要な栄養学・食品学の基礎を学修します。

科目の概要

この授業では栄養の概念、ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類と生理機能について学びます。さらに成長、発育、加齢による人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について理解し、各ライフステージにおける望ましい食事のあり方を学修します。

学修目標

1. 食品とそれに含まれる栄養素の性質や機能に関する基礎知識を修得する。
2. 成長、発育、加齢に伴う心身機能の変化と栄養の基礎を理解する。
3. 健康の保持・増進と疾病の一次予防における食の重要性を理解する。

内容

1	栄養の概念・栄養と健康
2	食品の成分と機能 1 : 糖質
3	食品の成分と機能 2 : 脂質
4	食品の成分と機能 3 : タンパク質
5	食品の成分と機能 4 : ビタミン
6	食品の成分と機能 5 : ミネラル
7	からだのしくみと栄養素の働き 1 : 消化器系の構造と機能
8	からだのしくみと栄養素の働き 2 : 栄養素の消化・吸収
9	日本人の食事摂取基準
10	ライフステージと栄養 1 : 妊娠 (胎児) 期・授乳期の栄養
11	ライフステージと栄養 2 : 乳児期・幼児期の栄養
12	ライフステージと栄養 3 : 学童期・思春期の栄養
13	ライフステージと栄養 4 : 成人期の栄養
14	ライフステージと栄養 5 : 高齢期の栄養
15	まとめ

評価

レポート・小テスト (30%)、定期試験 (60%)、授業への取り組み (10%) により評価を行い、総合評価60点以

上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に教科書を読み、授業内容を把握してください。日頃から食に関心をもって生活して下さい。

【事後学修】教科書や授業で配布したプリントをもとに、ノートをまとめましょう。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小林修平編著「健康づくりの栄養学」建帛社

【推薦書】脊山洋右，廣野治子編集「コンパクト栄養学」南江堂

【参考図書】厚生労働省「日本人の食事摂取基準2015年版」第一出版

科目名	解剖生理学		
担当教員名	久野 節二		
ナンバリング	KAf165		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格 :

ヒトの心理的活動を生み出す脳や神経に加え、これらの活動を維持するための人体の仕組み全般について講義する。講義内容から他の専門科目を理解する上での基礎的知識を習得できる。

##### 科目の概要 :

この科目では、ヒトの身体を構成する器官について構造を解説し、その特徴が示す働きについて理解することで、人間の生命活動における各器官の役割と相互的な関連性を学ぶ。

##### 学修目標 (= 到達目標) :

- ・ヒトの身体の基本構成を、構成分子、細胞および組織のレベルで各器官の構造的特徴を理解する。
- ・器官の構造的特徴から、その機能的意義を理解する。
- ・各器官の機能をもとに、相互の機能的相互関係を理解し、1個体としてのヒトの構造と機能の全体増を理解する。

#### 内容

1	解剖生理学の基礎：分子、細胞、組織、器官、器官系
2	骨格と筋 1：骨組織、関節、筋の付着
3	骨格と筋 2：筋の種類と運動
4	神経系 1：ニューロン、中枢神経系、末梢神経系の構造と機能
5	神経系 2：脳および脊髄の構造と機能、運動情報が伝わる経路
6	感覚器：感覚、感覚情報が伝わる経路
7	内分泌器官：ホルモン、ホメオスタシス、内分泌腺の構造と機能
8	循環器 1：心臓の構造と血液循環
9	循環器 2：血液の組成と機能、リンパ液と免疫
10	消化器 1：消化管（口腔、咽頭、食道、胃および十二指腸）の構造と機能
11	消化器 2：消化管（十二指腸、回腸、空腸、大腸）、肝臓および膵臓の構造と機能
12	呼吸器：気管および肺の構造と機能
13	泌尿器：腎臓および尿路の構造と機能
14	生殖器：精巣および卵巣の構造と機能
15	まとめ

#### 評価

まとめの最終課題レポート ( 50点 )、指定回の授業内容についての課題レポート ( 20点 ) および授業への参加度 ( 30点 ) により評価する。総合評価 60点以上を合格とする。ただし、評価を受けるには3分の2以上の出席が必要。60点未満の場合は、再レポートの提出が求められる。レポート提出に際し、ウェブ検索等による他からの文章のコピー・アンド・ペーストは絶対に行わないこと。

## 授業外学習

【事前準備】各回の受講前に教科書の該当ページをよく読んでおく（45分程度）。

【事後学修】受講後に各回の講義内容をまとめることで、理解できていない項目を明確にして自己学習する（45分程度）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】坂井建雄、岡田隆夫共著・解剖生理学・医学書院、第9版、ISBN：978 - 4 - 260 - 01826 - 5

【推薦書】なし

【参考図書】G . J . T o r t o r a ・トートラ人体解剖生理学、佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之編訳・丸善出版